



小檜ハウス

制作：小形 究（1975年生まれ。大工）
神奈川県茅ヶ崎市 KONARA HOUSE

ここはコナラ（小檜）やクヌギ（櫟）が生い茂る雑木林でしたが、それは長年探し続けてようやく巡りあえた理想の土地でした。

敷地の真ん中に、ひときわ高くコナラが繁っていたので、この木をシンボルに「コナラハウス」社を立ち上げました。

そしてロゴを作る際、自然と寄り添う住まいをテーマにデザインすると、ツリーハウスになってしまいました。

こんなロゴにした以上、本物を作らないと話にならない？ そう思って、ツリーハウス造りの勉強を始めました。大工とはいえ、ツリーハウスは別世界の夢のお話。日本の関連本は少ないので洋書まで買い漁り、実物のツリーハウスを見学するため、あちこちに足を運びました。

毎日、庭のコナラを見上げて構想を練り、想像をふくらませるうち、いつしか3年の詩が経っていました。

そして設計図とはいえないスケッチ画を描いて、いよいよ制作開始。ツリーハウスの床の高さは地上7mに設定し、床面積は2畳ほど。地上で作ったパネルをロープで引き上げ、高さ3mの小屋を組みました。しかし7mの高さをいちいち梯子を登っての作業は大変。途中で高さ4mのテラスを作り、そこを階上の作業場にしました。最初にこのテラスを作っておけば、もっと楽だったのにと後悔しました。

屋根と壁の仕上げはウッドシングルを張りつけ、本業の合間を見つけての作業は、完成まで約3か月かかりました。



広さは182cm×182cmの2畳だが、ベッドも設えた

自分の夢は子どもたちの夢も叶えることに。
超ロング・ブランコはジップライン感覚で



目覚めると雪……さっそく登る！



山の斜面を見下ろすテラスと子どもの遊び小屋には、いつも野鳥の鳴き声が……



ツリーハウスは雨にも風にも負けず約2年間コナラの木の上にありました。

ところが、ある日、木の幹から木くずが出るようになりました。原因はテッポウムシでした。

元気がなくなった木を守るため、やむなくツリーハウスを下ろす決断をしました。なにしろ、我が家にとっては御神木のようなものですから。木の大きさに対してハウスが少し大きかったので負担をかけたのかもしれませんが。

解体して下ろしたツリーハウスがもったいない！そこで、横の山の斜面に柱を立て、移築することにしました。こんどは傾斜に建つツリーハウスです。

ポーチとテラスを追加して、8畳の広さになりました。ハウスへはロープで作った吊り橋を渡って入ります。

室内は子どもたちの好きな色、ブルーを基調にしたインテリアでまとめました。そして天井から可愛いシャンデリアとペーパーボンボンを吊るし、絵本のような子どもたちの遊び小屋に生まれ変わりました。

